
赤 潮 情 報

鹿児島県水産技術開発センター
平成 17 年 5 月 25 日

鹿児島湾 No. 4

[1] 5 月 24 日の調査結果

(1) 赤潮生物の出現状況

全調査点で赤潮による着色域は確認されませんでした。

全体的に前回調査時(5/9)に比べセラチウム属の細胞数の増加が顕著で、最高細胞数は磯沖 10m 層において 133cells/ml でした。これらに伴い全体的に珪藻類の減少が顕著でした。

なお、ヘテロシグマ アカシオ、シャトネラ マリーナなどの有害プランクトンは確認されませんでした。

(2) 海 況

表層水温は湾奥部で 20.4～21.5℃と平年の同時期に比べやや高め、湾中央部で 20.3～21.7℃と平年同時期並となっています。

また、塩分は 32.4～34.2 で平年同時期に比べやや高め、同様に透明度もやや高めとなっています。

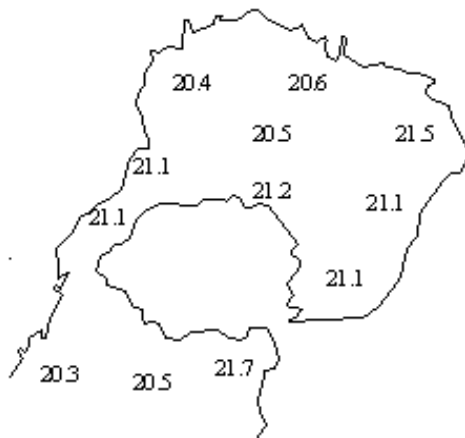
水 温：平均	20.9℃	湾奥部	21.0℃	湾中央部	20.8℃
塩 分：平均	33.0	湾奥部	32.6	湾中央部	33.9
透明度：平均	7.0m	湾奥部	6.9m	湾中央部	7.0m

(平年値は平成 1～16 年 5 月の平均値)

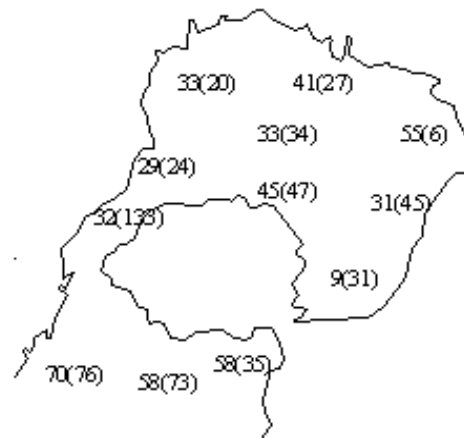
[2] 今後の赤潮発生の予想

依然としてセラチウム属の細胞数が多い状況にあります。前回調査と同様に優占種はセラチウムフススとなっています。本種は降雨等による塩分濃度が低下した時や水温の上昇が緩やかな時に中層域で比較的長期にわたって細胞数が多い状態が継続する傾向にあります。また、およそ 100 cells/ml を超えるあたりから極端な餌食いの低下がみられます。風や潮流等により急激に集積すること考えられますので、当面は給餌の際、海水の色や養殖魚の状態等に対する十分な注意が必要です。

一方、シャトネラ マリーナは、細胞が確認されていないことからしばらくは本種による赤潮の発生はないと思われます。



表層水温 (°C)



セラチウム フスス表層細胞数
[cells/ml, ()内は 10m 層]

赤潮情報：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/i/index.shtml>

赤潮図鑑：<http://kagoshima.suigi.jp/akashio/HTML/index.shtml>